

県都デザイン戦略推進会議 会議記録

日 時 平成26年4月14日（月）10:00～11:40

場 所 ホテルフジタ福井「瑞雲」

1 あいさつ

- ・西川 福井県知事
- ・東村 福井市長

2 議事

<事務局より説明>

- ・資料1 「県都デザイン戦略」主要事業の進捗状況について
 - ①福井城址公園の整備
 - ②足羽山・足羽川周辺整備
- ・資料2 景観デザイン調整について

(西村教授)

- ・「県都デザイン戦略」策定後、間を置かずいろいろな事業について県と市で調整しながら進んでいることに敬意を表したい。これだけ総合的に一つの都心に力を入れて再整備の動きがあることは、日本の中でもそう多くない。それが現実的に西口再開発や駅前の整備という形で目に見えてきており、しかも目標年次を国体、新幹線開業までにと、はっきりした形で持ちながら進めていることは素晴らしいと思う。
- ・山里口御門復元整備について、復元という形で実際に進んでいて良いと思うが、お城全てを復元できるわけでないため、今後、長期的に県庁が移転した後、城址内をどうするのかといった長期的なビジョンの中で戦略的に考えていく必要がある。
- ・中央公園周辺再整備について、現代と歴史のバランスがそれなりにうまく取れているが、1期整備と2期整備の間をどうするか考えていけないといけない。公園内の銅像はゆかりの地に移すべきではないかと思う。
- ・将来的には、フェニックス通りから福井城本丸まで大きな軸を通していくと良い。公園と通りを結ぶところに小公園がある例は珍しいが、ホテルフジタ前の公園は中途半端な状態になっている。長期的には公有化を考える必要があると思う。メインの通りとお堀がうまくつながる所があると良い。
- ・県庁線整備について、イベントなどでの使い方とセットで考える必要がある。県庁前の三角地等は駐車場ではなく、イベントなどでも活用できるように借りる等して公有化して、魅力が上がると良い。
- ・足羽川は大きな川として一つのテーマで進めるべきではないか。場所を区切って進めると、全

体として見た場合、細切れにならないかが心配。

- ・大名町交差点につながる道路の街灯のデザインが4方向とも違うというのはどうかと思う。
- ・グリフィス記念館（仮称）整備について、歴史的なものは大事であり、復元とセットで建物の中をどう使うかということと、周辺とセットで人が溜まれるような工夫が必要ではないか。個人的には、福井は食が特色であるが、浜町には休憩できる場所が少ないため、福井の食のアンテナショップ的なものがあると良いと思う。
- ・幸橋南詰を由利公正広場として整備したことは素晴らしい改善だと思う。橋のたもとはかつて非常に重要な所だったので、うまく戦略を立てるべきではないかと思う。例えば、九十九橋北詰は北国街道の高札場があり、道路ネットワークの原点や川の水運の拠点でもあった。重要な地点であり、うまく活かさないかと思う。
- ・仁愛高校前電停の緑のラインはもう少し細くするか、彩度を落とすかした方が良い。電停周辺の屋外広告物の規制とセットで景観を考える必要がある。
- ・中央大通りは、緑をもう少し増やすと良いと思う。
- ・水仙の照明灯は即物的になりすぎている。水仙の持つイメージ、例えば「可憐」などを抽象化し、そこからデザインに落とし込むとデザインが深まると思う。

（国吉教授）

- ・まちなかのデザインの方向性を、県と市のどちらか一方だけでなく、両者が語れると良い。
- ・山里口御門と中央公園は近接しているが、歴史と新しいものをどう絡めるかがまだ語られていない。歴史の見せ方、新しい市民活動、自然の保全など全体のイメージを出すことが必要だと思う。
- ・中央公園を先々どう広げていくのかというイメージを出せると良い。
- ・県庁線整備については、中央大通りも含め、沿道の店舗の1、2階の壁面を楽しい感じにしたり、各店舗に人が入りやすくなるような工夫ができないか、イメージを出してビル所有者の反応を探るなど、今の段階からやっておくべきと思う。
- ・愛宕坂はライトアップが行われているが、まちなかに光をつなげ、まちなかへの回遊性が出てくると良い。
- ・デザイン戦略を行う中で小さな工夫を徹底する、狙いを徹底することの事例として舎人門を例にすると、舎人門では外側から近づいていくと駐車車両が目に入り、歴史考証を重ねて作った門が生きていない。外部から駐車車両が見えない工夫が必要である。舎人門を中心とした歴史的な空間が浮き上がってくる工夫を徹底してやっていくことが必要である。
- ・福井市企業局ビル等の色彩は、もう少し工夫した方がよい。
- ・まち全体のシナリオを常に出し、個別の事業を行う時にも次に繋がる仕掛けをしておいてほしい。
- ・公共空間を担う重要な施設は、長期的に耐えられるデザインであるべきだと思う。街灯のデザインについて、最近ではシンプルに作って、バナーなどで演出することが多い。

(下川准教授)

- ・「県都デザイン戦略」に基づきこれから着手する所に関わる人々が、その事業に誇りを持ち、自分たちのものとして考えてくれるかどうかということに重きを置いて事業を進めるべきと思う。
- ・県庁線再整備については、住んでいる方や商売をしている方とコミュニケーションをとって、一緒に景観づくりを進める仕組みを作り上げると、整備した後で有効に活用してくれるのではないかと思う。
- ・「県都デザイン戦略」に関わる全てのものに対しては、民間団体、地元の方々と一緒に取り組む仕組みをまずしっかりと整えておくことが重要だと思う。
- ・足羽川はデザインとしては統一されるべきと思うが、県、市が一体となってそれぞれの形状、地域性に即した利用の仕方を具体的に提案していければ、ものすごく良い場所になると思う。
- ・グリフィス記念館（仮称）整備について、隣に整備が予定されている食の施設と一体的に計画していく必要があるのではないかと思う。

(西川知事)

- ・計画やデザインは多くあるが、推進力が足りないのが正に問題かと思っている。デザインについても、大きなところをしっかりと押さえて、進めていく必要がある。
- ・金沢市、富山市と比べると、福井市はまちのスケールとしては小さいが、歴史はあるので、それをどう活かしてしていくか考える必要がある。
- ・空間、土地を確保して、将来全体のデザインの中で不要なものは失くす等、スペースを拡大する計画や方向性を出していく必要があると思う。特に中央公園、福井城址周辺の方向性は非常に大事で、住民の方々との関係もあるが、ある程度の方向性を出さないと問題は解決しないと思う。
- ・足羽川は、県庁所在地の川としては、堤防が高くて扱いにくく感じる。河川は特色や影響力もあり、これをどうするかが課題だと思う。
- ・鉄道は福井の特色だと思うので、これをどう活かしていくか。
- ・県と市の役割分担、連携をスピードを上げてどう進めていくかがこれからの課題だと思う。
- ・自分たちが住んでいるまちであり、気持ちの良いまち、誇りが持てるまちにするのが基本であり、これをいかに力強く進めていくかが課題だと思う。

(東村市長)

- ・まちづくりはある程度思いきった手法を取り入れないと進まないと感じている。
- ・全体的に大きな括りでのデザインの方向性をどうつかむかということこれから考えていかないといけない。
- ・中央公園は、市役所の移転段階で再度計画を考える必要があると思っている。現在の計画に手戻りがないように考える必要がある。

<事務局より説明>

・資料3 街区再構築について

(西村教授)

- ・大きな構想を論じることが、都市の方向性をいろいろな人と共有できるということにつながってくる。
- ・公共事業だけでなく、官民が一緒になれるような仕組みがあると良い。
- ・駅と城が近い県庁所在地は福井、山梨、東京くらい。県庁線は駅と城をうまくつないでいるという意味で、福井の大きな特色となり得る。
- ・さらに、養浩館庭園にどうつなぐかというのも一つの戦略としてある。導線の途中において、魅力的な官と民の施設にいかにかに人々を誘導するかという施策があるとよい。
- ・お堀の周りを歩道でゆっくり歩け、車が走っていないのは大きな特色であり、お堀の周りで魅力あるスポットがつながっていけば、非常に魅力的な空間になり得る。

(国吉教授)

- ・お堀の周りのスペースが空いている所に、喫茶店など楽しめる場所や市民に使ってもらえる拠点をいくつか設け、お堀周辺の重要性を体験し、次の展開を生み出すような仕掛けが必要である。
- ・小さな未利用地や空き家の活用を促進する仕掛けがあると、次の演出につながると思う。

(下川准教授)

- ・短期的な活用として、「歴史のみち」と櫓や門の位置が重なる場所に、案内所、休憩所のような市民や観光客が憩える場所があると良いと思う。
- ・足羽山・足羽川周辺空間再形成基本構想では、市民や観光客の移動を助ける目的で、適所に交通の結節点（自転車、超小型EV）や情報発信拠点を設けるとしているが、中心部全体を通じて、そのような仕組みを導入すると良いと思う。

(西川知事)

- ・低未利用地をどう解決し、景観を良くしていくかが課題である。

(西村教授)

- ・低未利用地の活用策として、ターゲットを絞り、屋台村など仮設で実験的なものやってみるのも良い。

(下川准教授)

- ・空き家、空き店舗をリノベーションすることで活用の幅が広がる。利用の可能性を探っていくことが今後大事になってくると思う。